

厚真ライオンズクラブ認証40周年記念式典祝辞

皆様こんにちは。只今ご紹介をいただきました厚真町長の宮坂でございます。まずは、厚真ライオンズクラブの国際協会認証40周年を心からお祝い申し上げます。また、結成以来、今日まで社会奉仕の精神の下、数々のアクティビティを通じて本町の発展或いは地域コミュニティの活性化に大きくご貢献をいただきました。歴代の会長をはじめ会員の皆様のご努力に、改めて敬意と感謝申し上げます。

会場を見渡しますと331C地区である函館市を始めとした渡島・檜山管内から、小樽市を含む後志管内から、近隣の日高・胆振管内から大勢のライオンズクラブの皆様がお越しであり、また、本町との姉妹都市である岩手県奥州市前沢区の前沢ライオンズクラブの皆さんにもお越しいただきました。私からも改めてご歓迎を申し上げます。さすが各地域においてリーダーとしてご活躍の皆様であり、ほとぼしるエネルギーで会場が熱気にあふれ、この舞台も汗ばむほどに暑くなっています。また、この記念式典の準備に当たってこられた厚真ライオンズクラブの会員とレディライオンの皆様の行動力と団結力に、大変頼もしく感じており、重ねて敬意を表したいと思います。

認証40周年と大きな節目の式典でありますので、記念誌には様々な数字が登場します。35,100,200,800と大きな数字が目につきますが、100は1917年にアメリカでライオンズクラブが創設されてから、本年から3年後の2017年には100周年を迎えるということであり、35という数字は、厚真ライオンズのチャーターメンバーがこの40年の間に逝去されたり、都合によりクラブを去られたりした人数であり、現在も現役会員としてご活躍されているのは、森田正司ライオン只お一人になられたということではありますが、森田様におかれましては、後進を育てるという意味でも益々のご活躍をお願い申し上げます。200という数字は、国際協会の参加国が200か国を超えており、135万人の会員が参加する世界最大の社会奉仕団であることを表しています。800という数字は、厚真町で発掘された常滑焼の壺が奥州藤原氏からの伝来であることが濃厚であり、姉妹都市である奥州前沢との縁は800年という時を経て今に至っていることを暗示しています。

私の浅い知識ではありますが、視覚障害者用の白杖もヘレン・ケラーの講演を機会にライオンズクラブが開発したものと承知しています。最近の話題である視覚障害者に対する心無い暴力は、行き過ぎた個人主義の悪弊であり、先進国社会における人間関係の希薄さ、歪がもたらすものではないかと危惧しています。地域社会や小さなコミュニティから国際社会に至るまで、すべての構成員が友愛と相互理解の精神を養うことが、個々の尊厳と自由を守り、国や地域の平和を維持していくことに繋がります。ライオンズクラブの皆さんには、是非、社会奉仕の輪を広げていただき、公民道徳を備えて能動的に社会にかかわるという協働という理念の普及に貢献していただくようお願い申し上げます。

編集後記には、継ぐということの大変さを素直に述べられていますが、これまでに積み重ねられたご労苦の証だと思えます。それでも40年といえば、人間に例えれば壮年期に差

し掛かったばかりであります。厚真ライオンズクラブの皆様には、社会奉仕とチームワークという崇高な Lionism 思想を 10 年先の 50 周年、その先の 100 周年に繋ぐ活動を続けていただきたいと願っています。

結びに、厚真ライオンズクラブの益々のご発展とライオンと呼ばれる会員皆様の深い友情とご健勝を心からご祈念申し上げ、祝辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

平成 26 年 9 月 13 日

厚真町長 宮坂尚市朗